香取仙之助　作詞
中能島欣一　作曲

一、睡蓮・向日葵

唄　長田悠貴能（中能島会）
第一箏　上川都淑能（中能島会）
　　市川法慧能（中能島会）
第二箏　原島真能（中能島会）

琴古流尺八本曲

二、真虚霊

尺八　飯田帆盟（竹盟社）

峰崎勾当　作曲

三、越後獅子

三絃替手　酒井美智子（銀明会）
三絃本手　伊藤朋子（銀明会）
　　喜島更（銀明会）
胡弓　菊武粧子（白秋会）

初代中能島松聲　作曲

四、萬歳

箏　山下紗綾（朝香会）
三絃　花岡千日賀＊（山木会）

多門庄左衛門　作詞
岸野次郎三　作曲
宮城道雄　箏手付

五、吼噦

箏　岸村一智千＊（櫻葉美会）
三絃　吉原一智枝（櫻葉美会）

［略解］

昭和三十年八月、二部合奏曲として、香取仙之助の『花言葉集』の六つの詩の二つに作曲されたもの。

睡蓮は「純真」という花言葉のように初々しい雰囲気と睡蓮の可憐なイメージを技巧的にならず比較的古風な手法でうたいあげている。

対して向日葵は「あこがれ」を意味する花、可憐な睡蓮とは対照的に情熱の花であり、曲の構成にもこの洋花のモダンなところから発想されたと思われる新鮮な感覚がいくつか見られる。

琴古流古伝三曲の一つ。一七二八年に長崎の虚無僧寺・正（松）寿軒で一計子から初世黒澤琴古に伝来。また、『虚鐸伝記国字解』には、唐の普化禅師が托鉢時に鳴らした鈴の音を尺八で模して奏でた曲を「虚鈴」と呼び、これが一二五四年に日本に伝わったとある。そう思うと、曲中から実に多様な鈴の音が聞こえて来る。また、錫杖の音も聞こえ、普化禅師の托鉢している姿が目に浮かぶ。琴古流本曲の数々の特徴的な手が詰った一曲。

峰崎勾当作曲の三絃三下り手事物。今の新潟県に発生の起源を持つ角兵衛獅子とは、獅子頭を頭につけ、タッツケ袴をはいた少年達が太鼓や笛に合わせて軽業芸を見せていた門付けの獅子舞の事を称します。この角兵衛獅子を題材にした曲で、歌詞に越後の地名・名物を詠みこませ更に風情をもたせたものです。箏の手付には、八重崎検校と市浦検校の物がありますが、本日は九州系地歌の特徴を用いて、三絃の本手・替手による演奏です。

初代中能島松聲作曲。

年の始めに風折烏帽子に素袴をつけて、鼓を打ち戸毎にその家の賀詞を太夫と才蔵の二人によって掛け合いでうたって称える三河万歳を箏唄にうたったものである。

合いの手では、三番叟物に共通する施律となっており、才蔵のはやす鼓のリズムが表現されている。

元禄期（一六八八～一七〇四）、歌舞伎役者の多門庄左衛門による作詞に、歌舞伎三味線方の岸野次郎三が歌舞伎の舞踏劇の音楽として作曲しました。歌詞を通読しても物語を想像し難いですが、当時は十分理解していたであろうことを思うと、庶民文化の高さが推察されます。曲名の「こんかい」は狐の鳴き声に由来します。曲は京都系と大阪系の長短の伝承があり箏手付も複数ありますが、本日は大正九（一九二〇）年の宮城道雄師の手付で演奏します。

《＊は令和6年度文化庁助成事業修了者》